

「パリオリンピックを振り返って」



全日本電設資材卸業協同組合連合会
会長 小島 寿之

17日間の熱戦が繰り広げられたパリオリンピックが、8月11日に閉幕しました。開会式前日に高速鉄道へのテロが発生し、開催期間中のテロを心配していましたが、何事もなく開催でき

安心してました。今回のオリンピックはスポーツの祭典としてだけでなく、環境配慮型のオリンピックとしても世界的に注目を集めました。聖火台では、

初めて燃料を使わず、電気を使って光線と霧状にした水を組み合わせる炎を再現していました。また、競技場の電力は再生可能エネルギーで賄っており、そして、選手村ではエアコンの代わりに地下水による冷却システムを採用してありました。選手には不評で体調管理のために、自費で移動式エアコンを持ち込んだ選手もいたそうです。いろいろな課題はありましたが、持続可能な社会を目指す世界的な潮流に

も環境負荷を最小限に抑える取り組みが行われたのは良かったのではないのでしょうか。

3年前の東京オリンピックはコロナ禍のため、無観客での開催でしたが、今回は多くの観客が競技会場を訪れ、選手に対して多くの声援を送り、たいへん盛り上がった大会でした。

今回の大会も多くのスーパースターと呼ばれるプロ選手が参加しました。オリンピックで代表として国を背負って出場する誇りと責任は、我々の想像以上に大きいようです。ゴルフの松山英樹選手は銅メダルを獲得して、通常のメジャー大会での優勝よりも喜んでおりました。バスケットボールのアメリカ代表選手やテニスのトッププレーヤーなど年間数十億円稼いでいる選手が、賞金のほとんどないオリンピックで、必死になって戦っており、メダルの重みを感じました。

パリと日本の時差は8時間あり、ほとんどの試合は日本時間の深夜に開催され、日本の多くの方々には眠い目をこすりながら日本代表選手を応援していたのではないのでしょうか？日本代表のメダル獲得は45個と海外開催では過去最多となりました。柔道や体操、レスリングといった「お家芸」に加えて、

フェンシングやスケートボード、スポーツクライミングといった新しい競技でも、日本の選手は大活躍しました。スケートボードでは、14歳の吉沢選手が金メダルを獲得するなど、日本の若手選手たちはその才能を遺憾なく発揮しました。一方、馬術では「初老ジャン」^①として平均年齢40代のチームが銅メダルを獲得する姿を見て私たちの年代も勇気をもらいました。メダル獲得の有無などは関係なく、多くの感動を与えてくれた選手の皆さんに敬意を表します。